

エコシティたかつ

基本理念

地球環境危機の時代に対応した、自然の賑わいとともにある持続可能な循環型都市構造の再生と創造

100年後のたかつのまちのために

「エコシティたかつ」の基本目標

緩和策
低炭素・省資源社会の実現

適応策
地域に即した防災まちづくりの推進

自然の賑わい・生物多様性
自然共生型都市再生の推進

緩和策とは？

省エネやリサイクルなど、地球温暖化の原因となる温室効果ガスを減らし、温暖化の進行を防止・抑制する取組のことです。

適応策とは？

地球温暖化が進むにつれて集中豪雨や土砂災害などの水災害や、農業・健康への被害が深刻化すると予想されており、その影響を軽減するための取組のことです。

生物多様性とは？

生物の遺伝子の多様性、種の多様性及び生態系の多様性と定義されています。めずらしい生きものだけを守るのではなく、まちにある池や湿地、森などの多様な生態系を守れば同時にたくさんの生きものを守ることができます。

流域とは？

その地形により、降った雨が集まる大地の範囲・領域のことです。高津区は、多摩川流域と鶴見川流域に大きく分けられます。流域=大地のデコボコの視点でお住まいの地域を見てみませんか。



お問い合わせ

高津区役所企画課
044-861-3131



家庭でできる

適応策



生物多様性
保全

の取組

おうちビオトープを作ろう！

庭やマンションのベランダなどの身近な場所に、チョウや鳥たちが好む花や実のなる植物を植えて、生きものたちの新しい生息・生育空間を作り出すお手伝いをするのが「おうちビオトープ」です。緑豊かな緑ヶ丘霊園や多摩川、区内の学校ビオトープやおうちビオトープをつなげて、生きものたちの通り道・休憩場所を作りましょう。



バセリでキアゲハのビオトープができた！

雨水を有効活用しよう！

雨水タンク等を設置して雨水を家庭に貯めることで、川に流れる水の量を減らすことができます。また、庭先の植物への水やりや真夏の打ち水、洗車など日常的に利用することで、節水・省エネにつながりますし、災害などの非常時には消火用やトイレの流し水などにも活用することもできます。



家の屋根に降った雨をタンクに貯めて使います。



駐車場で一工夫しよう！

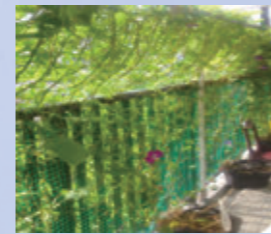
駐車場を一面コンクリートで覆って作るのではなく、タイヤが通るところだけにコンクリートを貼る等の工夫をしてみましょう。駐車場の一部に土を残すことによって地面に雨水が浸みていくので、側溝から川に流れる水の量を減らすことができ、大雨対策になります。



土の部分から雨水が地面に浸みていきます。

様々な緑化に挑戦してみよう！

緑のカーテンの取組は、戸建てにもマンションのベランダにも、かなり浸透してきました。この他に、建物の屋根や屋上、壁面に植物を植えて緑化することを屋上緑化、壁面緑化と言います。夏は緑陰で涼しくなり、熱中症予防にも一役買ってくれます。また、冬は草が断熱材となり寒さを防いでくれます。



マンションのベランダでできる涼しく、おいしいゴーヤのカーテン



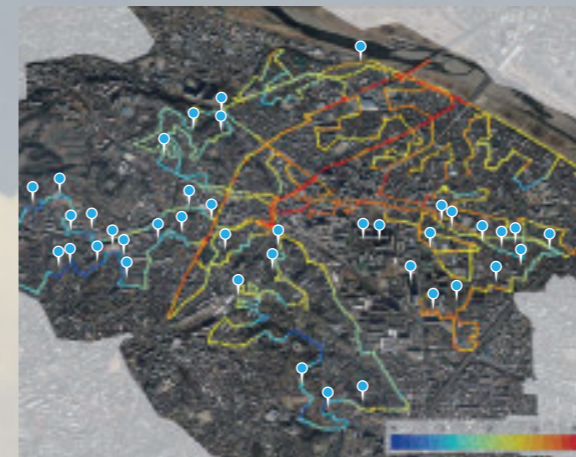
樽を使って緑と水辺を創出

ヒートアイランド現象

街歩き気温実測調査

2010年度、区民・大学・企業協働で夏の朝・昼、冬の朝・昼を延8回、ヒートアイランド調査を行いました。溝口駅周辺などの市街地や大山街道・246号線などの道路沿いの気温が高いことがわかります。また、平瀬川沿い、上作延地区・新作地区などの農地や森林が多い地域は気温が低いことがわかります。

📍は、クールスポットと呼ばれる特に涼しいスポットです。みなさんのお宅の近くはいかがでしょうか？



ヒートアイランドマップ (2010年1月15日早朝)

見つけよう！

私たちができる
適応策・生物多様性保全の取組

たかつ エコシティツアー MAP

地球温暖化が身近に迫る中で、これまでの対策に加えて、集中豪雨や土砂災害などの影響に「適応」するための取組も必要になっています。

このマップでは、区内にある身近な「適応策」と「生物多様性保全」の取組をご紹介します。



高津区で行われている適応策・緩和策・
生物多様性保全の取組を紹介します。
取組の行われている場所は、地図上に
マークで示しています。

凡例 適 適応策 緩 緩和策 生 生物多様性保全

健全な森と自然の賑わいを再生

緑ヶ丘霊園

(たかつの自然の賑わいづくり事業)

適 生

アオキやシラカシなどの常緑樹が覆った森は、林床が暗く下草が少ないため、保水力が低下している恐れがあります。地面の保水力が低下すると、大雨の時に雨水や土砂が流出し、被害を及ぼす可能性があります。そこで、常緑高・低木を間伐し、日当たりを良くすることで、下草を回復し、土砂災害に強い森を再生する取組を進めています。また、湧水を活用して水辺をつくることで、様々な生きものが住みやすい森にしています。



間伐により林床を明るく



水と緑の探検隊の作業風景

農地は自然の大きなダム

区内に広がる農地

適 生

高津区の橘地区には市街化調整区域内にまとまった農地が、また区内の市街化区域内にも生産緑地などが点在しており、約44 haの畑と約9 haの果樹園があります。トマトやブロッコリーなど品質の高い野菜が作られ、90年以上もの間、農産物品評会などが行われています。私たちに自然の恵みを与えてくれる農地ですが、農地は地中に一時的に雨水を蓄え、洪水による被害を防止・軽減する役割も果たしています。



橘地域の農のある風景



みんなで楽しく農業体験

公共施設の取組

高津区役所 (エコシティホール) 高津市民館 等

適 緩 生

区役所では、太陽光発電システムや屋上・壁面を利用した緑化、ビオトープなど建物全体で色々なエコの取組を紹介しています。市民館では、窓に遮熱フィルムを貼り、夏の暑さを和らげる取組をしています。夏の暑い日、冬の寒い日に公共施設を訪ねてみると、家庭でも取り組めるヒントが見つかるかもしれません。



ツル性植物による壁面緑化

川の流れを変えて市街地を洪水から守る

平瀬川トンネル

適

高津区を流れる平瀬川は、宮前区水沢に源流を持つ多摩川の支川です。かつては、溝口市街地を抜けて現在の二子坂戸緑道へ向けて流れていましたが、溝口付近で洪水被害が問題になっていたことから、昭和20年と昭和45年に、下作延から津田山をくぐり久地方面へ抜ける「平瀬川トンネル」が1本ずつ築造され、現在の流路に付け替えられました。



津田山を抜ける平瀬川トンネル



旧平瀬川の洪水 (昭和初期)

生物多様性と水循環の仕組みを学ぶ

区内小学校・中央支援学校 (学校ビオトープ)

適 生

区内の公立小学校15校と中央支援学校に「池のビオトープ」、「チョウのビオトープ」など、生きものの生態に合わせたビオトープを整備しています。また、学校の敷地に降った雨を池のビオトープや雨水タンクに誘導して、雨水を貯留・活用する取組も進めています。ビオトープを通じた生きものとのふれあいや水循環の学習により、次世代を担う子どもたちの育成に取り組んでいます。



ビオトープからヤゴやメダカを採取!



壁面に流れる雨水を貯留槽に集める

学校の校庭で雨水貯留

区内小学校・中学校 (一部) など

適

区内の小・中学校のなかには、大雨のときに降った雨が校庭に貯まるようになっていところがあります(校庭の地下に貯水槽がある場合もあります)。こうすることで、川に流れる雨の量を減らしたり、下流の地域が浸水することを防いだりしています。



雨水が貯まった校庭 (H27/台風18号)

洪水から暮らしを守る貯留トンネル

矢上川地下調節池

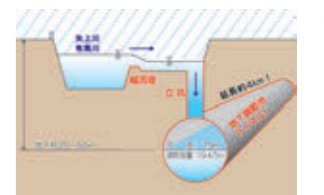
適

矢上川流域は、流域の市街化率が90%を超える地域で、雨水の浸透・保水機能が減少しているため、洪水被害がおりやすくなっています。この調節池は、洪水の軽減を目的として、60mm/時間(10年に1回発生する規模)の降雨への対策として整備が進められています。総延長約4km、調節容量19.4万㎡で、矢上川と有馬川の水位が上昇すると、地下の調節池に貯留されます。

問) 神奈川県川崎治水センター
電話 044-932-7211 (代表)



有馬川流入施設イメージ図



洪水調節の仕組み



流域の上流部と高津区で降った雨は、地面や支川、下水管を通して、最後は多摩川と鶴見川に集まります。流域は水の循環や生きものの生息・生育環境を考える大切な基盤です。

